

# すでに国体ムードがぶんぶん。 ”スポーツの町”づくりが始まっています。

熊本国体まであと四年。愛称・標語やシンボルマーク、メイン会場の準備などが進められ、国体気運も次第に高まっていますが、各競技の開催地はどうなのでしょう。

今回はアーチェリー会場となる菊陽町と新体操会場の芦北町を紹介します。リポーターは、永江明美さん（人吉市）と立迫なぎささん（芦北町）のお二人です。

なお、芦北町で新体操クラブを主宰しているらしやる立迫さんには、練習風景を披露していただき、指導者としての声を聞きました。



くぐ一つ。「けっこう力がいらいます」と永江さん（右端）



「アーチェリーの楽しさを知ってもらいたい」。指導にも熱が入ります



「アーチェリー？おもしろいよ」

## ●ただ今、町をあげて国体準備中

アーチェリー会場・菊陽町  
数年前には見られなかった広くきれいな道路と区画整備された町並み。私は、四年後の熊本国体でアーチェリーの競技会場に決まった菊陽町を訪れました。

町が主催し、熊本アーチェリー協会が協力して開かれている「アーチェリー教室・少年部」にお邪魔しました。この教室は月二回、同町が国体開催を機にアーチェリーの楽しさを町民に知ってもらおうと企画されたものです。私たちもみなさんと一緒に弓を引いてみましたが、なかなか的に当たりません。真ん中の黄色的に当たった時はとても気持ちのいいものでした。たった数本の矢を射ただけでも腕や肩が痛くなるほど、アーチェリーは見ている以上にハードなスポーツだと実感しました。

町の小・中学生が参加しており、そのほとんどの子がアーチェリーをするのは初めて。今日が二回目の練習ということ。教える方も習う

最終的に町民の皆さんに「この町に暮らしてよかった」と思ってもらえれば成功したと言えるのではないのでしょうか」と菊陽町社会教育課の椿安幸さん。あらためて国体開催に賭ける町の熱い思いを見たように思いました。  
（人吉市 永江明美）

## ●踊る楽しさを教えたい

### 新体操会場・芦北町

もう外はすっかり暗く、冷たい床の体育館の中を子どもたちは裸足で元気に走り回ります。軽快な音楽に乗ってウォーミングアップが始まります。

現在、三歳児〜小学四年生までの女の子四十名が通う、おどりっこクラブ。新体操、ダンス、マット運動などさまざまなことを、小さい時からやらせたい、と私は考えて挑戦させています。結成して七年、私の目的はスタートした時から変わりません。「子どもたちに新体操や踊ることの楽しさを教えたい」ということです。

しかし、芦北町が国体の新体操会場となった現在、私の中で「住民の方、そして多くの子どもたちの新体操への興味を高めたい。今のチビっ子たちを国体のアトラクションで花を咲かせてやりたい」という目的が新たに加わり、今までとは少なからずとも姿勢が変わってきたと思います。

方も一所懸命。中には「四年後の国体には選手として出場したい」という意欲的な子もいました。本当にそうなると思います。

町ではこの他にも、産業祭でアーチェリーのデモンストラクションを行ったり、競技会を誘致するなど、町民のアーチェリーへの関心が高まるよう、いろいろな働きかけをしています。

というのも町をあげて選手たちを歓迎しようというムードづくりのためです。国体の折は、選手たちをホームステイで受け入れる計画があるそうです。

町ではまた、数年前から「花いっぱい運動」も進めています。これも花で全国から集まってくる国体選手や応援者の心を和ませるものとなるでしょう。国体関連の道路（三線）の整備や町民がいろいろなスポーツを楽しめる総合運動公園の計画も着々と進められていました。

「正直言って、国体開催にはお金がかかります。でも、これをきっかけに町が美しくなり、人が育ち、水俣・芦北地区では、男子新体操の歴史は古く、優秀な成績を修めています。その一方、女子新体操に対する住民の方の意識はまだまだ薄いように感じます。女子新体操は、女性ならではの美しさの表現。があります。この魅力を多くの方に知っていただきたいものです。

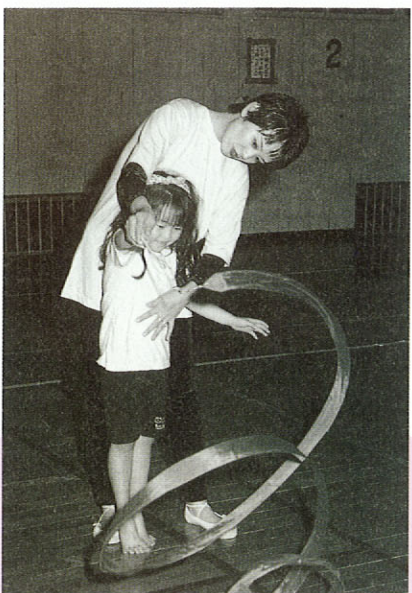
本町で十月に開催される体育祭のアトラクションに出場して今年で五年目となりました。子どもたちは発表の場を得、新体操を知らなかった町民の方の理解も深まってきているのではと思います。

今後の本町の計画としては、今年度末には国体準備室（仮称）の設置、また国体キャンペーン、住民意識の向上、子供達の育成を目的としたスポーツ教室「新体操教室」の開催。もちろん選手育成も図り、郷土からの国体選手の出場も考えているようです。

現在、国体施設（町民総合センター）、それに伴うアクセス道路（国体道路）の計画が進められています。町としては、すべての事業が国体に向けて動いているという感じがします。

それでも私としては、これからも「楽しく！」を第一に考えたレッスン内容で取り組み、その流れの中で子どもたちも国体出場を夢見て、練習に熱が入ってくれたらと思います。

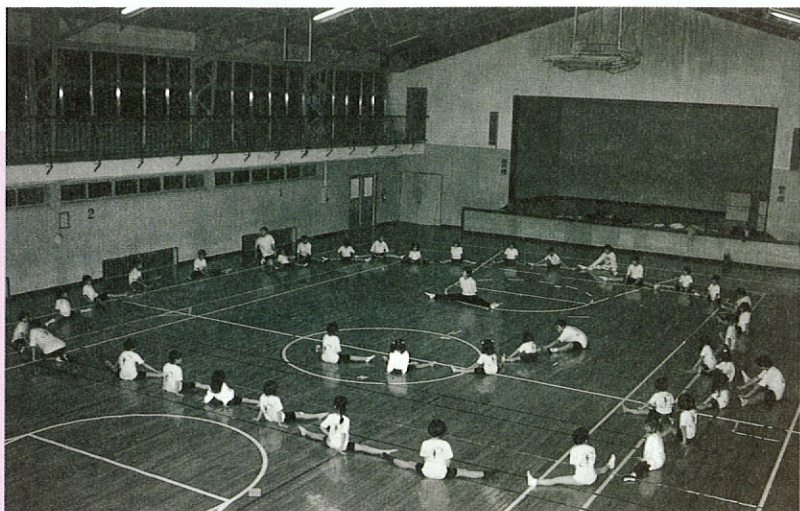
（芦北町 立迫なぎさ）



小さな子もきれいな円が描けます



「ほら、音楽をよく聞いてね」。立迫さんと子どもたち



夜の体育館に花が咲いた